福　島　復　興　支　援

「学生の力で世界とつながろうプロジェクト」

企　画　書

（福島大学と福島南ＲＣ連携事業　第２５３０地区震災復興支援補助事業）

１．プロジェクトの背景及び目的

東日本大震災及び東電福島第一原発事故は、内外のマスメディアにより大きく取り上げられ、福島は一躍世界の「FUKUSHIMA」になった。その結果、全世界から、福島を含む被災地・被災者に対し、多大な物的・財政的支援が寄せられたが、震災から 10 カ月が経過した現在、そうした支援では十分解決できない新たな課題が浮上してきている。すなわち、福島の今の現実と、そこに住む私たちの日常生活のありようが、正しく伝えられていないという問題である。

たとえば、福島県全域が危険で立ち入ることができないかのように報じられたり、原発事故だけが一面的に強調されて、「地震・津波・原発事故・風評被害」という複合被害が報じられなかったりしている。さらに、**震災から 10 カ月が経過した現在、あたかも原発事故は収束して、福島は復旧・復興に向かい、避難者もすぐ故郷に帰れるかのような報道までなされており、不安を抱きながらも毎日懸命に生きている福島県民の姿は、ほとんど知られていないと言っても過言ではない。**

日本各地や世界各国の人たちに、被災地に生きる私たちの苦悩に寄り添い、また共感と連帯感を持ってその活動を見守りつつ、多様な支援を続けてもらうためには、被災地福島の現状と私たちの暮らしの実情が、ありのままに伝わることが重要である。そのために、被災地に生きる私たちには、マスコミによる報道に頼ろうとするばかりでなく、自らの手で、積極的に広く世界に福島と私たちの実情を伝え、より多くの人たちに私たちの声を届ける手立てを整えることが、今もっとも求められている。

福島南ロータリークラブと福島大学うつくしまふくしま未来支援センターとは、このような問題意識に立って、被災地福島の現状を伝え、日本各地及び世界各国から福島へとその共感・連帯の輪を拡げることを目的として、福島と世界の将来を担う若い世代を対象にした「学生の力で世界と繋がろうプロジェクト」を共同企画した。このプロジェクトでは、日本と世界の学生に福島に集まってもらい、福島の学生の案内のもとチャーターバスで被災地を訪れ、その現実とそこに住む私たちの生活をリアルに感じてもらうとともに、福島の学生との『共通の体験』をもとに、福島の復旧・復興のあり方とそれを支援する方策とをともに考えるという機会を創出する。そして、**各地から来た学生は、福島を体験した「証言者」としてそれぞれの国や地元にもどって、自らの言葉で福島の現実を広く伝える役割を担ってもらうことを想定している。**

福島大学は、これまで福島県に所在する高等教育機関、唯一の国立大学法人として、地域社会を支える有為な人材を養成してきたが、今後は、被災地福島の復旧・復興に取り組む意欲的な人材を養成していかなければならない。しかしながら、原発事故の影響もあって、来年度の志願者の大幅減少も予測されており、学生が安全・安心して学べる環境をつくりながら、魅力ある学びの場を提供することが喫緊の課題になっている。福島大学及び福島県高等教育協議会加盟の各大学の学生には、外部から来た学生を案内し交流することで、FUKUSHIMA がどのように報道されているかを知り、福島をどう伝えるか、どう復興させていくかを考えるきっかけにしてもらうとともに、日本各地や世界へと「友人」のネットワークを広げ、このプロジェクトを通じて培った世界的な視野と人間関係を今後の福島と東北の復興に活かせる、次世代の人材としての成長が期待されている。福島県民と福島県、さらには東北の復興を実現していくためには、これまでのような物的・財政的支援にとどまらず、コミュニティを再生・創造し、社会関係を再構築することが重要であり、そのための人材養成が不可欠である。「地域づくりは人づくり」と言われるが、これは、災害復興においてもまったく同様である。

とはいえ、**本プロジェクトを福島大学単独で実施することは、学生の受入れ体制や資金の面で困難が予想される。そこで、これまで世界的に広がる人間関係を活かしながら福島における若い世代と人材育成と国際協力、国際支援活動を積極的に担ってきた福島南ロータリークラブとともに、その人的ネットワークやノウハウ、ロータリークラブの補助金を活用しながら、本プロジェクトを協働で企画・実施するにいたった次第である。**

２．プロジェクトの内容と日程　企画案

国内外の学生に、福島に 1 週間（6 泊 7 日）滞在してもらい、セミナー、バスツアー、ワークショップ、発表会などを実施する。募集人員は、国外学生 20 人と国内学生（留学生含む）10 人の合計 30 人。福島在住の学生（福大生ほか）10 人がホスト役となる。

国内の学生を対象にしたツアーを実施して、課題を明らかにしたうえで、国外の学生も含めたツアーを実施する事を予定している。

プロジェクトの内容と日程（案）は以下のとおりであるが、今後、ホスト役の学生を中心とした実行委員会を組織して、詳細を検討していく。

１．「福島発！学生の力で世界とつながろう」実行委員会

〇福島大学生を中心に県内大学より今後選抜

〇現在のメンバー：福島大学行政政策教師、学生

〇福島南ロータリークラブ

〇全体会議の他にツアー日程別（テーマ別）グループを作る

２．内　　容

〇学生による報告（案）

コンセプト：２日目以降のフィールドワークへの導入となること

報告内容（案）

１．第一原発事故後の福島

２．なぜ日本の原子力政策は変わらないのか？

３．学生によるボランティア活動

〇フィールドワークの対象地・テーマ

コンセプト

１．４つの複合災害（地震・津波・原発事故・風評被害）の被災地である福島でなければ経験できないものとすること

２．来福者が福島のことを「自分の問題」と捉えられるようにすること

３．帰国後に福島との連携・支援活動へと発展させる可能性を示すこと

４．福島の経験を各地で活かすためのヒントとなること

テーマと対象地（案）

１．相馬・南相馬の津波被害と復興活動

市役所でのレクチャー

海苔の養殖業者や農地の除塩等の復興活動関係者の取材

各種の市民活動

２．「かーちゃんの力プロジェクト」を通じて知る福島の食文化と農業の現状

福島大学小規模自治体研究所との協力で実施する

阿武隈地域の食文化と農業を知る

現状報告：素材調達、放射線検査、加工食品

見学対象：「かーちゃんの力プロジェクト」

３．福島大学生とともにボランティア活動！

福島大学災害ボランティアセンターとの協力で実施する

県内仮設住宅で実際にボランティア活動を行う

「肉体系」ではなく「交流系」ボランティア

足湯ボランティア（主として高齢者対象）/学習・遊び支援（子ども対象）

４．観光地福島の現状

土湯温泉観光協会の協力のもとで実施

日本各地にある「温泉」と温泉文化

風評被害の現状と取り組み

地熱発電の可能性

５．子供たちを放射能から守る市民たちの活動

こども福島、福島のこども保養プロジェクトとの連携で実施する

市民放射能測定所等で話を聞く

保養プロジェクトに同行する

県外の協力団体との懇談―県外からできる支援について

６．原発事故と放射能から福島の「農」を守る取り組み

「ゆうきの里」東和の協力のもとで実施する

福島の「農」は守られるか？どう守るか？

農産物の放射線値の測定

７．飯舘村：原発事故とその後

各地で放射線値をはかり、原発災害時の状況を追体験する

他地域（農作業が進むところ）との対象で現実を知る

避難住民や役場のヒアリング

３．日程案

６月１０日（日）～６月１６日（土）

○ 日程（計画案） ※福島または、成田空港までの旅費は、参加者負担

1日目 羽田・成田空港からチャーターバスで移動（または個別に福島まで直接移動）

夕方 福島集合 受付・懇親会 福島温泉旅館

2日目 午前 レクチャー・ビデオ等 午後 ワークショップ 福島温泉旅館

3日目 福島 ⇒ 相馬・南相馬現地視察、住民交流

4日目 福島 ⇒ 浪江・飯舘視察、住民交流

5日目 午前 市民団体 午後 ロータリークラブとの会議・交流 ホームスティ

6日目 午前 自由行動 午後 報告準備 男女共生センター

7日目 午前 報告会・解散式

羽田・成田空港にバス移動（または福島で解散）

４．連携・協働の意義と役割分担

福島南ロータリークラブは、震災発生以降、復興支援室を立ち上げ、義援金、車椅子、福祉車両の提供など、積極的に地域復興に係わってきたが、その過程で、風評被害を払しょくするための長期の活動の必要性、ハード事業に加えてソフト事業の必要性を痛感するにいたった。ロータリークラブは、米山記念奨学金などを通じて学生の支援に努めてきた伝統を有しており、福島南ロータリークラブでは、地元の大学である福島大学と連携・協働し、若者の力を使って現状を打破し、福島の復旧・復興を図ることを発案した。ロータリアンとして、「汗」「知恵」「お金」の三つの奉仕を辻手、福島の復旧・復興に努めたい。

一方、福島大学は、地域に根差した大学として、震災復興研究所及びうつくしまふくしま未来支援センターを設置して、研究会の開催、復興計画支援、環境エネルギー、こども・若者支援に取り組んできた。また、学生は、災害ボランティアセンターを立ち上げたり、子どもたちの学習・遊び支援を実施したり、さらには学習会や研究会などさまざまな活動を通じて、原発災害によって苦しむ福島の地で学び暮らすことの意義を懸命に模索しているところである。

現時点では、原発災害の影響もあり、留学生の新規受け入れが中止になっているが、福

島にいて他大学の学生との交流を進め、学生の自主的主体的な活動を促進することは、地域社会の復興にとっても、ひとりの人間としての成長にとっても大きな意義を有している。

このような現状と課題を抱える両者が、復興に向けた取り組みについて話し合い、「国内外に向けた情報発信」「学生（若者）支援」「次世代の人材養成」の必要性について合意し、連携・協働事業として構想したのが、「学生の力で世界と繋がろうプロジェクト」である。

本プロジェクトは、両者の連携・協働事業であるが、おおむね次のような役割分担を想定している。

○　福島南ロータリークラブ

①　プロジェクト実施に必要な資金提供（支援金募集・補助金の申請）

②　ロータリークラブのネットワークを通じた参加学生募集

③　多様な職業に係わるロータリアンとしてのセミナー開催

④　学生のホームスティの受け入れ

⑤　その他

○　福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

①　「アカデミア・コンソーシアムふくしま」のネットワークを活かした、ホスト学生（実行委員）の組織化

②　学生による企画授業等の準備

③　福島大学の HP や定例記者会見などを通じた広報

④　福島大学の各種施設・設備の利用

⑤　記録及び報告書の作成

⑥　その他

５．事業予算案

プロジェクト１回の実行予算

１、大型バス借り上げ　　７日間×１００，０００円＝７００，０００円

２、宿泊費　　旅館３泊×４０名×７，０００円＝８４０，０００円

学生のアパートへホームステイ補助３泊×４０名×２，０００円＝

２４０，０００円（朝夕食代を含む）

３、交流会費　　２回×４０名×３，０００円＝２４０，０００円

４、昼食費　　６回×４０名×　　８００円＝１９２，０００円

５、報告書・ＨＰ等作成経費　　１５０，０００円

６、保険料、諸経費　　１３８，０００円

合計　２，５００，０００円